

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成19年度 第2回 議事録」

日時	平成19年7月5日(木) 14:20~16:40		場所	名古屋国際会議場	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了		委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康	×	委員(WG2)	川口 正人	
委員(WG2)	太田 岳洋	×	委員(WG3)	渡部 要一	
委員(WG3)	山本 肇		委員(WG4)	仙頭 紀明	
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	×
委員(WG5)	大窪 克己	×	委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG7)	三谷 泰浩	×	委員(WG8)	石川 達也 (代理:三浦清一)	
オブザーバー	野田 典広				

:出席 :代理出席 ×:欠席
議事録担当:川崎 了 幹事

配布資料:

- 資料番号なし:平成19年度第2回委員会議題書
- 資料19-2-1:平成19年度第1回委員会議事録
- 資料19-2-2:赤本冊子ページ数の集計結果
- 資料19-2-3(1):赤本編集工程
- 資料19-2-3(2):規格・基準改訂状況表
- 資料19-2-4(1):原稿テンプレート
- 資料19-2-4(2):原稿執筆要領(赤字加筆版)
- 資料19-2-5(1):「岩盤不連続面の室内一面せん断試験方法」会告案
- 資料19-2-5(2):「岩盤不連続面の室内一面せん断試験方法」基準案
- 資料19-2-5(3):会告案および基準案修正対応表
- 資料19-2-6-1(1):WG1 ホームページ
- 資料19-2-6-1(2):WG1 活動報告
- 資料19-2-6-2(1):WG2 ホームページ
- 資料19-2-6-2(2):WG2 平成18年度第3回WG会議議事・配布資料
- 資料19-2-6-2(3):「土の有効陽イオン交換容量の測定方法」基準案
- 資料19-2-6-2(4):「廃棄物の地盤工学的利用と環境安全性評価」セミナー開催報告
- 資料19-2-6-3(1):WG3 ホームページ
- 資料19-2-6-3(2):WG3 平成19年度第1回WG会議議事録(案)
- 資料19-2-6-4:WG4 ホームページ
- 資料19-2-6-5(1):WG5 ホームページ
- 資料19-2-6-5(2):「突固めによる土の締固め試験」基準および同解説の修正案
- 資料19-2-6-6(1):WG6 ホームページ
- 資料19-2-6-6(2):WG6 平成19年度第1回WG会議議事録(案)
- 資料19-2-6-7:WG7 ホームページ

資料 19-2-6-8(1):WG8 ホームページ

資料 19-2-6-8(2):WG8 活動報告

資料 19-2-7: 予算執行状況

議題：

【審議事項】

(1) 赤本冊子について (資料 19-2-2)

予定している赤本冊子の各編のページ数に関しては、後半の【報告事項】の「(2) 各 WG の活動報告」のところで報告してもらうことにした。

(2) 「土質試験 基本と手引き」改訂関係 (資料なし)

当委員会内で議論した結果、前回改定時の編集委員会の委員長に相談することで了承された。また、委員長の就任を依頼する時期については、基準の見直し・改正の状況を見ながら判断することになった。(平成 19 年 9 月頃の予定)

(3) 「地山しらすの判別分類」基準関係 (資料なし)

同基準(JSF M 2-81)に関しては、赤本では地盤調査法で取り扱うことが書かれているが、現在の地盤調査法には載っていない。同基準を次回の地盤調査法の改訂時に掲載して欲しい旨の文書の後藤委員長が作成し、次回の基準部会(7月12日(木)開催予定)において上申することになった。

(4) 全体スケジュールの確認 (資料 19-2-3(1)~(2))

赤本の改訂作業に関する全体スケジュールについて確認を行った(資料 19-2-3(1))。また、各 WG 会議、委員会、基準部会、理事会の開催予定時期、基準の改訂作業の進行状況などを把握するための一覧表について説明がなされた(資料 19-2-3(2))。各 WG は、同表に必要事項を記入し、事務局まで返送することになる。

一方、土の一軸圧縮試験の基準で、「圧縮力が最大値の 2/3 程度に減少する～」の部分の「程度」を削除する修正は公示の対象となるのか、との質問が出されたが、各 WG でもう少し具体的に見直し・改正作業を進めた段階で改めて議論することになった。基本的に「てにをは」や誤字・脱字以外の修正・加筆については公示の必要性があるが、当委員会幹事会と学会事務局で改訂の程度に関する判断基準を作成し、7 月 9 日の週の前半に委員各位まで資料 19-2-3(2)と一緒に送付することになった。

(5) 書式について (資料 19-2-4(1)~(2))

事務局が作成した赤本の原稿テンプレート(資料 19-2-4(1))および原稿執筆要領(資料 19-2-4(2))について紹介がなされた。なお、書式に関しては、表記法委員会が作成した執筆要領(前回委員会の資料 19-1-5)と赤本の書式の違いがあることが判明したため、原稿テンプレート(資料 19-2-4(1))および原稿執筆要領(資料 19-2-4(2))が次回の基準部会(7月12日(木)開催予定)において承認された後、これらの電子データ 2 つを幹事から委員各位まで速やかに配信することになった。

一方、「赤本の図は各 WG で新たに作成するのか」との質問が出されたが、新規に追加する図に関しては経費削減の観点からできるだけ各 WG で作成すること、また、現在の赤本の図に関しては前回と同じ印刷業者に今回も印刷を依頼できる見込みであり、図のデータを持っていることから新規に図を作成する必要はないことで了承された。

(6) その他

(資料なし)

・ ISO および他国の基準の動向

赤本の基準および解説の改訂作業時において、ISO および他国の基準の最新版が必要になるかどうか議論した。その結果、本件を各 WG に持ち帰って問合せを行い、もし必要な場合には、どこ国のどの基準が欲しいかを調べた後に、次回の委員会までに事務局へ連絡することになった。

・ データシート

現在、土関係の基準についてはデータシートがあるが、岩関係の基準にはデータシートがないため、土と岩の基準が一緒になる今回の赤本改訂版では両者のバランスが悪いとの意見が出された。岩に関しても解説の一部としてデータシートを作成してはどうか、との提案も出されたが決着が付かず、継続審議とすることになった。

一方、データシートのページ数について質問があったが、現状の赤本の B5 版をそのまま A4 版に拡大することで了承された。(1 ページの場合は 1 ページのまま変更なし)

【報告事項】

(1) 「岩盤不連続面の室内一面せん断試験方法」基準関係 (資料 19-2-5(1)～(3))

席上で紹介された同基準の会告案(資料 19-2-5(1))および同基準(資料 19-2-5(2))が、委員各位から出された修正意見に対して対応した最終版であるとの報告がなされた。これらは当委員会ですでに承認済みであり、次回の基準部会(7月12日(木)開催予定)において上申され、審議される。

(2) 各 WG の活動報告 (資料 19-2-6-1(1)～8(2))

- ・ WG1: 岩のデータシートを除いて 258 ページの予定。また、次回の WG 会議は 7 月 31 日(火)に地盤工学会で開催予定。第 2 編の執筆者の追加を検討中。赤本全体のバランスを考え、第 2 編の「概説」は省略せずに書くこととする。Q&A の回答案の修正は WG1 に一任し、至急対応する。
- ・ WG2: ページ数は 23 ページ増加する予定。前回の WG 会議は 3 月 22 日(木)に開催。新規基準案として CEC の測定方法(案)が提示されたが、ISO の内容と 9 割が同じであり、両者の比較対応表を作成して次回の委員会で議論する。地盤工学会、廃棄物学会、土木学会の 3 学会 4 委員会が共催する「廃棄物の地盤工学的利用と環境安全性評価」セミナーを 6 月 8 日(金)に開催し、盛況だった。
- ・ WG3: 4 ページ増加する予定。圧密試験に関しては、基準の見直し・改正 2 つを検討中。なお、透水試験に関しては、今回は基準の見直し・改正を行わない。
- ・ WG4: ページ数を増やさない方向で検討中であるが、40 ページ(10%)増える可能性が高い。WG 会議は 7 月 5 日(木)に開催し、今後は追加メンバーおよび基準の見直し・改正の

有無について検討を実施する。

- ・ WG5: 基準の見直し・改訂案が提出されたが、時間の都合で委員会において審議できず、今回は幹事会で対応する。なお、幹事会からの意見を踏まえて検討した基準の見直し・改訂案を再度提出してもらい、次回の委員会で集中的に審議を実施する。
- ・ WG6: 新規基準は ISO に近付ける方向で検討中である。新規基準は現時点では 4 つであるが、最終的には 5 つになる見込みである。8 月中には基準案を委員会に上申する予定。
- ・ WG7: 報告なし。(「岩盤不連続面の室内一面せん断試験方法」の基準案および会告案の修正対応)
- ・ WG8: ページ数は合計 69 ページとなる見込み。WG 会議は 7 月 5 日(木)に開催し、改訂作業の基本方針および目次案(章)などについて確認した。「特殊土」の言葉に抵抗があるとの意見が出たが、特殊土のままとして変更しない。今後は、試験方法や表記・説明などに関する見直しを行い、7 月中に目次の節、項を各執筆担当者から提出してもらう。

(3) 予算の執行状況

(資料 19-2-7)

現在までの当委員会および各 WG の予算の執行状況について報告があった。各 WG は、予算の計画的な執行と節約が必要であり、割り当てられた予算をオーバーする可能性がある場合には、事前に幹事会まで相談して欲しい旨の要請があった。

(4) その他

次回の室内試験規格・基準委員会は、下記の候補日の中から幹事が日程調整を実施して 9 月中旬に開催する。時間は終日(午前および午後)を予定。

9 月 10 日(月), 11 日(火), 18 日(火), 19 日(水), 20 日(木), 21 日(金)

当日の主な議題は、各 WG より提出される各編の基準の見直し・改正に関する審議である。すなわち、各 WG における基準の見直し・改正作業は、遅くとも 9 月上旬までに終了して事務局まで提出しておく必要がある。

以上